

「学び」と「育ち」の連続性で培う9年間～施設分離型小中一貫校の取組～

周南小中一貫教育校 君津市立周南小学校

1 はじめに

君津市では、「小中一貫教育カリキュラム」によって義務教育9年間の『学び』と『育ち』の連続性のある教育の推進に努め、一人一人に応じたきめ細やかな教育」を目指し小中一貫教育をスタートさせることとした。

それに伴い、平成28年度には文部科学省「小中一貫教育推進事業」を委託され、「小・中の校舎が離れている『施設分離型小中一貫校』として、どのような取組ができるか」を軸に事業を進めてきた。

平成30年4月1日に、「周南小中一貫教育校」が開校。同年11月には、「周南小中一貫教育フォーラム」を開催した。

ここでは、本小中一貫教育校のこれまでの取組と今後の方向性について紹介する。

2 周南小中一貫教育校教育目標

夢を持ち、将来を切り開くことができる
周南っ子の育成

- ① なみを愛し、思いやりのある心を持てる子
- ② なにごとにも粘り強く取り組む子
- ③ みずから学び続ける子

3 具体的な取組

小学校1年生から4年生までを「前期」、小学校5年生から中学校1年生までを「中期」、中学校2、3年生を「後期」とし、以下の五つの柱となる取組を通し、「9年間を見据えたキャリア教育の推進」を図る。

(1)小中一貫した学習・生活習慣の確立

- ①学校生活のルールや約束を示した「周南っ子の約束 十ヶ条」を小中全教室に掲示し、全児童生徒がその姿に近づけるよう努める。

周南っ子の約束 十ヶ条

- 一、相手に伝わる『あいさつ・返事』をしよう。
- 一、相手を『思いやる言葉』を使おう。
- 一、人のために『役立つ』ことをしよう。
- 一、気持ちよく過ごすために『約束』を守ろう。
- 一、限りある『時間』を大切にしよう。
- 一、自分を磨く『学習』をしよう。
- 一、最後までやり通す『根気』を持とう。
- 一、目標に向かって『努力』をしよう。
- 一、すべての『命』を大切にしよう。
- 一、進んで運動して『体』を鍛えよう。

- ②発達段階に応じた「学びの約束」を、全児童生徒及び教職員が常に意識して学習に向かうことで、進級、進学しても安心して学習に取り組める環境を作り、自ら学ぶ意欲を持った児童生徒を育てる。

〈中期〉 学びの約束

一、自分から進んで学ぼう
二、人の話をしっかりと聞こう
三、わからないことは聞こう
四、わかったことは友達におしえてあげよう

話し合いの仕方

発表の仕方
○大きな声ではっきりと話す。
●僕は……です。
＊……だから……だと思います。

聞き方
○話す人の顔を見る。
○目・耳・心を使って最後まで聞く
○自分の考えとの共通点や違うところを考えながら聞く。

反応の仕方
○○○○さん賛成です。
○○○○さんと近い意見です。
○○○○さん理由が□□だからです。
○○○○さんに付け足しがあります。
○○○○さんに質問があります。

(2)異学年交流・小中教員の相互乗り入れ授業の実施

①異学年交流

- ア小中合同挨拶運動
イ各種行事（運動会・体育祭、音楽集会・文化祭）での交流
＜前期＞小1～小4が一緒に取り組む
「たてわり清掃」

＜中期＞中期合同「周南史跡めぐり」

＜中・後期＞小6と中学生による「合同徒歩
遠足」

小6の一日中学校体験

②小中教員の相互乗り入れ授業

相互乗り入れ授業とは、小学校の教員が中学校に、中学校の教員が小学校に行き、チームティーチングで授業を行うことである。（相手校を訪れた教員がT1として授業を行う。）

ア中学校数学科教員→小学校6年算数科

（毎週水・金曜日に各学級週2時間）

イ小学校教員→中学校1年数学科

（毎週水・金曜日に各学級週2時間）

ウ中学校英語科教員→小学校5、6年

外国語科へ

（毎週水・木曜日に各学級週1時間）

③小中一貫した地域学習の推進

＜前期＞小1・小2「まち探検」

小3「周南の丘（教育の森）探検」

小4「地域安全マップ」

＜中期＞小5・6・中1合同の「周南史跡めぐり」に向けた学習

＜後期＞周南地区の歴史・文化・伝統を調べ、
発信する活動

これらの活動と併せ、社会科、理科等の学びも関連付け「すなみを愛し、思いやりのある心を持てる子」を育てる。

④算数科・数学科を核とした、主体的・対話的で深い学びの推進

①小中9年間の教科の系統を意識し、これまで学んだことを生かして、自分から進んで問題に取り組む児童生徒を育てる。

②「話合いの仕方」を身に付け、友達と対話をしながら学習を進める。

⑤豊かな人間関係づくりの推進

①取組内容

朝・帰りの会や学級会、係活動、学校行事、道徳など全教育活動を通じて、友達と協力することの大切さや、社会のマナーを学ん

でいる。県教育委員会が推進している

「豊かな人間関係づくり実践プログラム」とは違う、本小中一貫教育校独自の取組である。

②取組を通して目指す方向性の共有

ア小学生には中学生や中学校の教員と接しながら、中学校生活への期待感を持たせ、「中1ギャップ」の解消を目指す。

イ小中学校教員の積極的な交流により、相互に児童生徒理解に努め、同じ価値観の下、周南小中学校の児童生徒を育てていく。

4 今後の方向性

(1)昨年度の実践から見えてきた課題

①前・後期の児童生徒は中期の児童生徒に比べ授業や行事での小中の交流が少ないため、小中一貫教育を行っていることを実感しにくい。

②「施設分離型」であるため、「小中一貫教育校」になって、何が変わったのか、保護者や地域には見えにくい。そのため小中一貫教育の良さを伝えていく必要がある。

(2)課題解消に向けての新たな取組

①地域への積極的な学校公開

ア小中同時期の「学校自由参観週間」の設定と地域への参観の呼びかけ

イ乗り入れ授業や交流活動の積極的な公開

②前期児童と後期生徒の交流活動の新設

ア中学校での地域清掃活動への前期児童（小3、4年生）の参加

イ小学1、2年生が生活科等で作成した資料を通しての中学2年生との学習交流

③合同学校評議員会、合同PTA本部会の開催

④定期的な小中合同挨拶運動反省会の実施

以上のような取組を通して、施設分離型の小中一貫教育を推進している。今後も評価、改善を行いながら更なる発展を目指していきたい。